



おまえざきの きらり輝く人

子どもたちの夢を育てていきたい

もちづき
望月

いさお
勲

さん



PROFILE

もちづき・いさお (70:新谷区)

塗装・防水工事などを業務とする株望月塗工の代表取締役を務める。紺綬褒章の受章は、今回で11回目となる。

真に栄えある受章

2月8日、(株)望月塗工代表取締役の望月勲さんへ石原市長から紺綬褒章が手渡された。紺綬褒章は、公益のために多額の寄付をした功績が認められた個人・団体に国から授与されるもの。

(株)望月塗工から御前崎市への寄付は、旧御前崎町時代の平成2年から毎年続けられており、本年度の1千万円を含めると総額で1億8100万円にも上る。寄付金は、一旦、市の国際交流基金に積み立てられた後に、市内の小・中・高校生を対象に実施される海外研修事業への補助や中学校に派遣されている英語指導助手の人件費などに充てられる。市では基金を活用し、海外の生活・文化に触れ、交流すること、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

寄付を始めた理由

28歳の時に御前崎へ引越してきた望月さん。ここに住み始めて何年か経つたとき、ある思いが芽生えたという。「御前崎は、港を持っているまちでありながら、子どもが海外に行く機会などは、ほとんどない地域でした。だから、何とか外国の文化に触れさせてやりたいと思っていました。外国人と対等に渡り合える人材の育成を強く感じていたことも理由の一つです」と当時を振り返る。

子どもたちに期待

「旧御前崎町の時代から数えると寄付も22年目になります。町が海外研修事業を始めたころの子どもたちは、既に社会人となつていますが、子どものころに海外の文化や習慣に触れ、学んだことは、自信となつて、きつと、その後の人生に役立っていると信じています。次代を担う子どもたちには、豊かな国際人になつてほしいと願っています」と大きな期待を寄せている。